

## 伝統芸能の文化交流が

## マサチューセッツ州各都市にて

## 尺八(中島聖山)と日本舞踊(叶和里)と



スプリングフィールド音楽学校開設10周年記念演奏会のリハーサルで調整するロングリバー協会のメンバー

平成5年10月、北海道と姉妹提携しているマサチューセッツ州のポストンほか各都市で、旬日に渡る伝統芸能の交流が大きな成果をあげて行われた。その交流に参加したのは、道内で積極的に活躍する尺八と舞踊の2団体で、道の国際交流基金の助成による交流事業の一環であった。なお、こうした北海道から発信する伝統芸能の公的交流は多く、この一兩年では平成4年5月のポートランド市でのジャパン・ウィーク、同年9月のポストンほかでの北海道ウィーク等には多様な伝統芸能団体が参加、平成5年5月の札幌国際ブラザ主催の伝統音楽交歓も韓国の大邱市で盛況裡に開催される等、活況を呈していると言えよう。

**十年余来の交流が一つの結実として**  
 なお、マサチューセッツ州でのこの伝統芸能交流は、同年10月に開校10周年を迎える、同州のスプリングフィールド音楽学校の記念演奏会に、後述するロングリバー尺八協会より、道内の尺八演奏家中島聖山が招聘されたことを契機とするが、それは同氏の十年余の交流が結実したものと見えよう。

略述すれば、この度の招聘に大きな役割を果たしたメアリ・エレン女史は、昭和57年文部省留学生として来日、日本文学研究のため北大で一年間学び、

その間新都山流大師範であった中島聖山に尺八を師事、帰国後ハーバード大学で虚無僧に関する研究論文により博士号を取得している。一方、昭和45年に准師範になったとき以来聖琳社を創設して門人の育成を始めていた中島聖山は、このエレン女史が帰国するに先立って、送別のための演奏会を開催したが、これが因らざるも聖琳社の第1回定期演奏会となり、その後の同氏の演奏活動の大きな基盤となっていた。

一方、エレン女史は帰国後、在住のベルチャタウンやスプリングフィールド音楽学校等で尺八の普及に大きく貢献していった。その後、中島聖山が昭和63年に上梓した「尺八——知識と奏法」(ぎょうせい刊)がハーバード大学の図書館に入ったことを契機として、エレン女史は尺八による文化交流を中島聖山に熱心に働きかけ、平成2年4月にハーバード大学でのレクチャーを中心とし、7都市で2週間に渡る尺八行脚が始められた。このレクチャー形式は尺八の民俗音楽としての特色、そこに包含される精神性等の内容紹介を中心に構成、また交流の場合は小中学校、音楽学校、大学等教育機関を中心にエレン女史によりセットされ、各地での音楽団体との民謡合奏や交歓演奏等の交流を続けていった。その間、各地で尺八の直接指導も多数の人々に要請され、その折「アメリカ尺八協会を作っておくから、ぜひ定期的に……」という申し出を受けてびっくりさせられたというが、それが僅か3年後の今回の文化交流の招聘の主役を務めるに至った「ロングリバー尺八協会」の創設に結びつくとは、中島聖山自身想像もし

なかったに違いなからう。

一方、こうした経緯をたどったのち、聖琳社の定期演奏会は平成4年には第10回公演を迎えようとしていたが、従来からこの定期演奏会には様々な意欲的な試みを希求してきていた中島聖山は、この10回目の記念公演を、これまでの著しい盛り上がりを見せる海外の門弟を中心にした国際交流演奏会として位置づけていった。それらの海外の門弟の、いたずらに異国情緒指向というよりは、より真摯に尺八音楽を一つ

の文化として評価しようとする、その姿勢を高く評価して、海外門弟のわが国での発表の場を模索したのであった。その結果平成4年8月国際交流演奏会には、マサチューセッツ州からエレン女史をはじめ4人の尺八愛好家らが来演し、聖琳社中演奏家および筆曲の第一人者たちと共に見事な演奏を披露していった。

なお、この国際交流演奏会終了後、当日出演したマサチューセッツ州の尺八愛好家を中心となって、帰国後間も

なく、このロングリバー尺八協会が創設されたようだ。なお、この「ロングリバー」は当地を流れるコネチカット川にちなんで命名された。小さな川が、長い道程を経て広がりつつ、やがて海に到達する——そんな思いを込めて名付けられたとのこと。エレン女史を中心に学校の先生方が多く、アメリカの子供たちに特に聴いてほしいといま10人余りの同人が頑張っているようだ。

#### レクチャーと演奏交歓とが多彩に

この様にして平成5年10月、招聘された中島聖山は、主催する新都山流尺八・聖琳社の会員である依田星山、南条西山の2名を伴い、またこうした伝統芸能の文化交流にはよく合同で舞台披露を行ってきた日本舞踊叶流の扇和会々主叶和里等との2団体でこの文化交流事業に参加、10月11日には、ベル

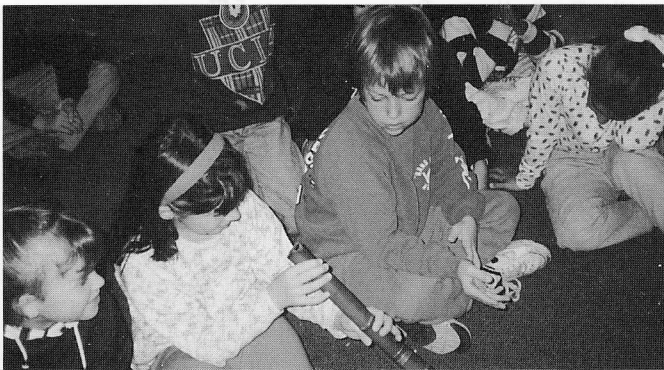
チャタウンに到着、ロングリバー尺八協会との旬日に及ぶ日程の打合せが行われた。

今回の交流の主な目的は、先述したようにスプリングフィールド音楽学校開校10周年記念コンサートでの出演や、ハーバード大学での日本舞踊とレクチャーコンサート等だったが、そのほか各地域の市井での地味な交流も大きな主題であったとも言えよう。

まずは、この度様々な機会に交流を重ねてきたロングリバー尺八協会との演奏披露が今回のメインイベントでもあるため、尺八協会メンバーとの合同練習は到着した10日の徹底した稽古に始まって、各演奏会場でのリハーサルも入念に行われた。そして市井の人々との交流は幼児や小学生等や市民団体など、いわゆるアマチュアとの底辺からの接触が中心で、アマースト市内フ



今回交流の影の立役者メアリ・エレン女史のスプリング・フィールドカレッジでのレクチャー。



小学校での学童保育プログラムのひとこま。



開校10周年記念演奏会での合奏。

オート・リバー小学校、ベルチャータウン小学校でのレクチャーコンサート、さらに、学童保育プログラムでのレクチャーコンサート等いずれも楽器を介しての有意義な交流が12、13日と続いていった。

そして翌14日は、スプリングワールドのテクニカルレッジでのレクチャーコンサートのと、夕方にはエレイン女史の街、ベルチャータウン主催の市民交流コンサートと市民交流会に参加をしていった。ロングリバー尺八協会等の尺八演奏のほか、中学校バンドや市民バンドとの交歓演奏、さらにはこれらのバンドの伴奏をバックに「いやさか音頭」の演奏など、街をあけての交歓交流が盛り上がった。中でも600人余のホール会場の壁面には、同町の美術の生徒たちが、江戸時代の女性風俗等を交えて日本をイメージした絵画を一杯に広げて展示してくれた歓迎ぶりに、遠来の来訪者たちは一様に感動したという。

そして15日は、スプリングフィールド音楽学校の開校10周年記念演奏会で「ホッカイドウ・リフレイン」が行われた。曲目は中島聖山、依田星山、南条西山等による尺八演奏で、吉沢検校「秋の曲」、中尾都山「紅葉」。そして叶和里による長唄舞踊「七福神」、ロングリバー尺八協会と聖琳社会員合同演奏で中尾都山「平和の山河」、掉尾には民謡「いやさか音頭」が尺八と音楽学校全生徒の洋楽器による合奏で披露された。終了後の先生、生徒、父兄との交流夕食会が、何とも和やかに楽しかったことも、大きな収穫の一つだったと、関係者は口々に呟いていた

ようだ。

### 日本舞踊への大きな興味と反響が：

今回の文化交流のもう一つの大きな柱は、17日に行われたハーバード大学の日本舞踊のレクチャーだった。

これはハーバード大学のモダンダンスの権威であるマラード教授からの要請で行われたもので、モダンダンスのゼミの学生たちを対象に行われた。全体は講演、実技、模範演技披露といった構成で行われた。講演というよりは、日本舞踊鑑賞のための導入的解説で、日本舞踊の生い立ち、能との違いや伝統芸能のなかでの位置づけ等で、実技は礼に始まる舞踊の基本と振付の形式等を解説、そして具体的な作品披露による模範演技等であった。

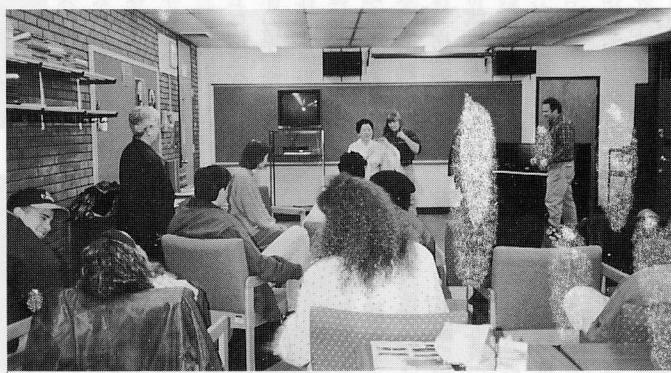


叶和里さんによる日本舞踊「八島」

『日本舞踊の持つ基本的な特徴をいろいろと説明しましたが、さらに当日披露する「八島」の振りの表現の中で、その振りの持つ感情表現をどのように

追求するかなどのお話が、多少くみ取っていただけで：

と、出演した叶和里の帰国後の述懐だが、この基本的解説、簡単な実技による振りの意図等の説明の導入的アプローチは、かなり効果があったようだ。この叶和里の日本舞踊のレクチャーはハーバード大学のほかに、それ以前の様々な地域でのレクチャーのときも合わせて実施されてきたが、そうしたア



日本舞踊のレクチャー

プローチの効果は随所で感じ取ったようだ。

『皆さん様に、素踊りの一つの衣裳のままでの色々な状況描写や感情表現を、また老人や若者、男や女等と様々な人物を踊り分けることの妙味に非常に関心と興味を示してくれて。そんな意味では「八島」の様々な情景を色々と楽しんでくれたようで、とてもうれしかったです。』



扇子の使い方から基本的なフリを...

なお、この叶和里の舞踊紹介に学生たちが一様に深い感動を示し、さらにご自身も深い興味を持たれたマラード教授から、来年の同大学のカリキュラムにぜひ組み込みたいからと、6ヵ月間の特別講座の依頼が、強い要望で寄せられているという。

今回のマサチューセッツ州への文化交流も、10余年にもわたる地味な交流の結実とすれば、またこの度の交流の成果も、更なる新たな人間関係、文化交流の確かな礎として、きつと根づいていくことに違いないと、大いに期待していききたいものである。(笠井 脩)